関西自然保護機構会誌 *23*（*2*）：*197－201, 2001*

原　著

春日山原始林の鳥類（観察記録）について

日本野鳥の会奈良支部　小　船　武　司

Birds in broad leaf evergreen forest at Kasugayama. Kobune Takeshi (*Nara Branch Office, Wild Bird Society of Japan*)

このたび，シンポジウム世界遺産「春日山原始林」において，春日山原始林の鳥類について講演の機会を与えられ，またその内容の本誌への投稿を奨められた。春日山原始林に限っての鳥類の生息状況についての報告は「特別天然記念物春日山原始林緊急調査報告書」が唯一のものである。しかしこれは27年も以前のものであり，関係諸氏には既にご承知のものであることから，そして何よりもその後の変化の方がより関心が高いと思われることから，あえてこの報告には言及せず，近年の変化を示唆する資料をもって報告することとした。

さて，春日山原始林の生物相の多様性等の生態的価値はいまさら言うまでもない事で，奈良公園平地部から春日山原始林は，まさに野鳥観察者のメッカであり，筆者の50年来の，そして日本野鳥の会奈良支部の30年来のホームグランドである。したがって毎年野鳥の繁殖期に観察会をおこなってきた。その1977年～2001年の観察種記録を表1にとりまとめた。

この記録は確認種のみであり、数量的把握はできていないので直接生息数の変化を表すものではない。しかしこの表からでもかなりこの間の変化を読み取ることができる。なおこれら変化の傾向は全国的，一般的傾向と同様である場合が多い。しかし，春日山原始林は一見したその環境にさほど変化が感じられないにもかかわらず，やはり変化している。それら変化について述べてみたい。

① 各年の観察種類数が1980年代後半から減少している。

ちなみにこの記録は繁殖盛期のものであり，通過鳥や漂行鳥を除く約80％の種がこの地域で繁殖する留鳥および夏鳥であるが，減少傾向は夏鳥に著しい。

② ミゾゴイは'85年から，アカショウビンは'90年から確認されていない。この種は浅い開水面，小流，湿潤な腐植層の小動物を捕食している。またトラツグミ，クロツグミも減少している。この種は豊かな腐植層の小動物を多食している。このことは原始林の乾燥，保水力の低下を示唆していると考えられる。筆者が観察を始めた頃の原始林は湿潤な腐植層に富み，小流は常に水が流れ，所々に湧水があった。

③ オオルリ，コサメビタキ，サンコウチョウが減少している。これらの種はフライキャッチャーと呼ばれるとおり，林間を飛び回る昆虫を空中で捕食しているが，餌動物の減少が考えられる。これは上記②の変化と根は同じと思われる。

④ タカ類のサシバが'94年から確認されていない。そしてオオタカが'00年に確認されている。これは春日山原始林の質的変化ということではなく，20年ほど以前から始まった里山全般の大きな変化である。かつてサシバは里山にごく普通に見られる個体数の多いタカで，ヘビ，カ

表1． 春日山原始林における1977年～2001年の繁殖期の野鳥観察会の確認種の記録を取りまとめた．O印は確認を示す．

種名＼年	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	00	01	備考
ミゾゴイ		O	O	O		O		O																		乾燥
ハチクマ				O				O	O	O				O											O	
トビ	O			O	O				O	O												O				
オオタカ																								O		
ツミ								O																		
ハイタカ		O			O										O			O								
サシバ	O	O	O		O		O		O	O	O		O		O		O									減少
クマタカ			O		O																			O		
コジュケイ	O	O	O	O	O	O	O	O		O				O				O	O						O	減少
ヤマドリ	O		O		O		O						O								O					減少
キジ	O		O	O	O	O		O	O																O	
キジバト	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O		O	O	O	O	O	O	O	O	O		O	O	
アオバト	O		O		O	O	O	O	O	O	O			O		O			O					O	O	
カッコウ								O																		
ツツドリ					O																	O				
ホトトギス	O		O	O	O			O	O	O	O		O			O							O			減少
アオバズク		O	O	O	O	O		O	O				O	O	O	O	O		O	O	O	O	O	O		
フクロウ			O		O	O		O	O	O	O		O	O		O							O			
アマツバメ								O	O							O	O			O						
アカショウビン	O	O	O		O	O	O	O	O		O	O	O													乾燥
ブッポウソウ							O		O																	
アオゲラ	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O		O	O	O	O	O		O	O	O	O	O	O	O	
アカゲラ			O			O	O										O						O			
オオアカゲラ	O			O	O		O				O	O							O				O			
コゲラ	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	
ツバメ	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	
コシアカツバメ				O			O	O	O	O	O	O	O	O	O						O					
イワツバメ													O		O										O	
キセキレイ	O	O		O	O	O	O	O	O	O	O		O	O	O		O		O	O	O	O	O	O		
セグロセキレイ	O	O			O	O	O	O									O	O	O	O	O	O	O	O	O	
サンショウクイ	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O						O	O		O	O	O	O	減少
ヒヨドリ	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	
モズ					O				O					O							O					
マミジロ			O																							
トラツグミ	O													O		O										減少
クロツグミ	O	O	O		O			O													O					減少
ヤブサメ	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O		O	O	O	O	O	O	O	
ウグイス	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	
メボソムシクイ	O				O			O	O																	
センダイムシクイ					O	O	O													O					O	
キビタキ	O	O		O		O	O	O	O	O	O		O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	
オオルリ	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O		O		O	O	O	O	O	
コサメビタキ	O	O		O	O	O	O			O	O						O	O					O			減少
サンコウチョウ	O		O	O	O	O	O	O	O		O						O	O	O				O	O	O	減少
エナガ	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O		O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	
ヒガラ	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O			O	O	O	O	O	O	O	
ヤマガラ	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	
シジュウカラ	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	
メジロ	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	
ホオジロ	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O		O	O	O	O	O	
カワラヒワ	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	
イカル	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	
カケス	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O		O				O	O	O	
ハシボソガラス	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	
ハシブトガラス	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	
種類数 55	37	31	35	33	42	34	35	39	37	31	31	21	29	29	26	26	27	20	28	23	26	25	29	28	29	減少

表2． 奈良公園平地部における1993年～1996年の毎月1回の野鳥観察会の記録にもとづいて，各種の出会いの場所，その頻度を示す資料として取りまとめた．

種名	渡りの区分	生息期間												生息環境					備考
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	水面	水辺	芝地	木立	森	
カイツブリ	留鳥	○	●	●	○	○	○	△	◎	◎	◎	◎	◎	○					荒池、鷺池
カワウ	漂行鳥			△								△	△	○					荒池、鷺池
ゴイサギ	留鳥						△		△				△		○				池の水辺、森にねぐら
アマサギ	夏鳥							△	△	△					○				荒池、鷺池の水辺
ダイサギ	通過鳥									△	△				○				荒池、鷺池の水辺
チュウサギ	通過鳥								△	△					○				荒池、鷺池の水辺
コサギ	留鳥	○		○	△	○	●	△	●	●	●	◎	◎		○				荒池、鷺池の水辺
アオサギ	留鳥	○	△	△	○	●	●	●	○	○	◎	●	◎		○				荒池、鷺池の水辺
マガモ	冬鳥			△										○	○				荒池、鷺池
カルガモ	留鳥	○	△	△	○	△	○	△	△		△	●	○	○	○				荒池、鷺池
ヒドリガモ	冬鳥											△		○	○				荒池、鷺池
ハチクマ	夏鳥								△	△							○	○	上空飛翔
トビ	留鳥									△				○	○	○	○	○	上空飛翔
オオタカ	留鳥	△	○	○		△							○	○	○	○	○	○	上空飛翔
ハイタカ	留鳥			△		△					△		○				○	○	上空飛翔
ノスリ	冬鳥		△	△							○	△					○	○	上空飛翔
サシバ	夏鳥						△			△							○	○	上空飛翔
ハヤブサ	漂行鳥												△	○	○	○	○		上空飛翔
コジュケイ	留鳥					●				△							○	○	ブッシュ、草地
キジ	留鳥					△											○	○	ブッシュ、草地
イカルチドリ	通過鳥								○	△	△				○				裸地、泥湿地
ケリ	留鳥				△	△									○				裸地、泥湿地
タゲリ	冬鳥											△			○				裸地、泥湿地
イソシギ	通過鳥								△	○					○				裸地、泥湿地
キジバト	留鳥	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	●	◎			○	○	○	
アオバト	冬鳥		△	△		△											○	○	常緑広葉樹林
アオバズク	夏鳥						○	△										○	樹洞に営巣
ヒメアマツバメ	留鳥	△					△					○		○	○	○	○		上空飛翔
アマツバメ	通過鳥						△				△					○	○	○	上空通過
カワセミ	留鳥	○	○		○	△	●	△	●		●	◎	○		○				池、川の水辺
アオゲラ	留鳥	△			○	●	△	△		△								○	
アカゲラ	留鳥					△					△	△						○	
コゲラ	留鳥	◎	●	◎	◎	◎	◎	◎	●	●	◎	◎	◎				○	○	
ヒバリ	漂行鳥					△										○			若草山で繁殖
ツバメ	夏鳥			○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	△	△		○	○	○	○	○	上空飛翔
コシアカツバメ	夏鳥								△	○	△	△		○	○	○	○	○	上空飛翔
イワツバメ	通過鳥				△						△	△		○	○	○	○	○	上空飛翔
キセキレイ	留鳥	●	●	◎	◎	○	△	◎	△	○	◎	◎	◎		○				建物に営巣
ハクセキレイ	冬鳥	◎	●	○	△	△					◎	◎	◎		○	○			裸地、砂泥地
セグロセキレイ	留鳥	◎	◎	◎	◎	●	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		○	○			裸地、砂泥地
ビンズイ	冬鳥	◎	●	◎	◎						△	●	◎			○	○		松の木立
タヒバリ	冬鳥											△			○				池の水辺
サンショウクイ	夏鳥					△												○	激減した
ヒヨドリ	留鳥	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎				○	○	

（表２つづき）

種名	渡りの区分	生息期間 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	生息環境 水面	水辺	芝地	木立	森	備考
モズ	留鳥	●	○	◎	○		△	△		△	◎	◎	●			○	○		
キレンジャク	通過鳥				△												○		群れで移動
ヒレンジャク	通過鳥				△	△											○		群れで移動
ルリビタキ	冬鳥	△	●	○	○								○				○	○	照葉樹林の下生え
ジョウビタキ	冬鳥			△									△			○	○		疎林、庭
トラツグミ	冬鳥	△	○	○	△												○	○	腐植層の豊かな地上
クロツグミ	夏鳥				△													○	広葉樹林
アカハラ	通過鳥				△	△											○	○	
シロハラ	冬鳥	◎	●	●	●							○	△				○	○	腐植層の豊かな地上
マミチャジナイ	冬鳥		△	△	△	△										○	○	○	
ツグミ	冬鳥	◎	◎	◎	◎							●	◎			○	○	○	年により増減する
ヤブサメ	夏鳥					○												○	森の茂み
ウグイス	留鳥	◎	◎	◎	●	◎	◎	△			●	◎	◎				○	○	ササ原、茂み
センダイムシクイ	夏鳥					○												○	広葉樹林
キビタキ	夏鳥					◎	●	△										○	広葉樹林
オオルリ	夏鳥				△	△												○	広葉樹林の渓流添
サメビタキ	通過鳥									△	△						○	○	
エゾビタキ	通過鳥										△						○	○	
コサメビタキ	夏鳥				△	△				○							○	○	減少した
サンコウチョウ	夏鳥						○											○	減少した
エナガ	留鳥	◎	◎	◎	◎	◎	●	◎	○	◎	◎	◎	◎				○	○	
ヒガラ	留鳥			△	△	○	△				△	△	○					○	
ヤマガラ	留鳥	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎				○	○	
シジュウカラ	留鳥	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	●	◎	◎	◎	◎				○	○	
メジロ	留鳥	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	●	◎	◎	◎	◎				○	○	
ホオジロ	留鳥	○	△	△		△	○		△				△				○	○	
カシラダカ	冬鳥			○	△							△	○				○	○	群れで行動
アオジ	冬鳥	○	◎	◎	△							○	●				○	○	
クロジ	冬鳥	△	△															○	
アトリ	冬鳥	△	△	○	△								△				○	○	群れで行動
カワラヒワ	留鳥	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	●	●	◎	◎	◎			○	○		
マヒワ	冬鳥	○	○	○								○	△				○	○	群れで行動
ウソ	通過鳥			△													○		
イカル	留鳥	○	○	●	◎	◎	○	△	△	●	◎	◎	◎				○	○	
シメ	冬鳥	○		○									△				○		
ニュウナイスズメ	冬鳥			○	△							●	●			○	○		群れで行動
スズメ	留鳥	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎			○	○		
コムクドリ	通過鳥				△												○		
ムクドリ	留鳥	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎			○	○		
カケス	留鳥		△			△					△							○	
ハシボソガラス	留鳥	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		○	○	○	○	
ハシブトガラス	留鳥	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		○	○	○	○	

エル，大型昆虫ほかの小動物を捕食していたが急激に減少した。変わって主に鳥類を捕食するオオタカがよく見られるようになった。

⑤　コジュケイが減少している。これも春日山原始林の質的変化ということではなく，人為的に移入されたこの種そのものの変化である。コジュケイはおよそ50年前に奈良盆地北部で自然生息が始まり，その後急激に増殖し分布も拡大していった。しかし'80年頃から減少し始め，いまでは個体数の少ない種となっている。

以上春日山原始林の最近の鳥類の生息状況について述べたが，これは筆者の所感であり，調査によって裏付けられたものではないことをお断りしておきたい。

表2は日本野鳥の会奈良支部の「奈良公園定例探鳥会」（毎月第2土曜日の午前中，奈良公園を散策して自然ウオッチングを楽しむもので，現在も継続している）の1993年～1996年の4年間の観察記録を整理したもので，かすがオープンセミナー講演論集「春日文化」第五冊に「春日大社境内に生息する鳥類一覧表」として既報のものである。しかしこれはあまり自然関係研究者の目に触れていないとおもわれるので今回の講演でも取り上げることとした。

またこれは春日山原始林のものではないが，隣接するアプローチ部分の現在の生息状況として参考に供した。

表の内容は4年間のもので，したがって毎月4回の観察となる。（7月は雨天中止が1回あったので3回である）

その出現度を次ぎのように示した。

◎印‥‥4回（7月は3回）共観察した。

●印‥‥4回のうち3回（7月は3回のうち2回）観察した。

○印‥‥4回のうち2回観察した。

△印‥‥4回のうち1回（7月は3回のうち1回）観察した。

そのコースは，近鉄奈良駅－興福寺境内－春日参道－荒池－鷺池－飛火野－春日の森で，昼前解散となるが，こんな散策コースでも86種の観察が記録されている。

引用文献

小船武司．1975．春日山原始林の鳥類．「特別天然記念物春日山原始林緊急調査報告」文化財保存課．45－48．奈良県教育委員会，奈良．

――．1997．春日大社境内に生息する野鳥について．かすがオープンセミナー講演論集春日文化第5冊．31－33．春日大社，奈良．

観察会記録，1977－2001．支部報いかる．4号－95号．